

JUA Newsletter for Next Uro-Generation



医学生・初期研修医のための泌尿器科News letter

札幌医科大学泌尿器科学講座には現在四十一人の教室員がおり、道内十七の関連施設(常勤のいる施設)で「腰は軽く頭は重く腰は軽く」をモットーに日々、診療、研究、教育に励んでおります。当講座の教授は二〇一三年八月に就任した舂森直哉教授です。教授以外の教室員は、全員四十三歳以下と若い組織となっております。当講座の雰囲気は非常におだやかで、面倒見のいい教室員が多いです。学生実習中は話しかけやすい雰囲気づくりや、学生を放置しないよう心がけておりますが、これが功を奏してか、最近は入局者が増えております。

北海道には三大学に医学部がありますが、土地が広大なため、北海道における泌尿器科医の需要に十分こたえられていない現状があります。北海道の広大さにまつわるエピソードとしては、出張先への移動が飛行機ということもたびたびです。地図上では釧路と根室はす

ぐ隣に見えますが、そこですら二〇kmの距離があります。

当講座の専門は、尿路性器腫瘍、排尿異常、尿路感染症、内分泌疾患、不妊症、性機能障害、移植など多岐



様性があり
ます。開放、内視鏡、顕微鏡、腹腔鏡、ロボット支援など様々な手術がありますが、特に腹腔鏡手術の教育に力を入れております。泌尿器腹腔鏡手術のトレーニング

にわたります。また、同一性障害症例に対する性別適合手術を行っている施設は全国的にも珍しく、特別な専門分野です。泌尿器科で扱う臓器は幅広く、その分だけ手術にも多

た泌尿器科医に
を開始し
とって、最初の目標は泌尿器腹腔鏡技術認定医の取得になります。本認定医取得には、専門医取得後二年以上の腹腔鏡トレーニングが必要となります

が、当講座では既に約六割の教室員が本認定医を取得しているため、常勤医が二人以上いる施設においてはその関連施設に赴いても腹腔鏡技術認定医取得を目指したトレーニングを継続することができます。

現在、ロボット支援手術は泌尿器科領域でしか保険適用がありません。札幌医科大学でも泌尿器科が先頭になり、前立腺癌に対するロボット支援手術が保険適用となったその年(二〇一三年)にda Vinci システムを導入し、運用しております。さらに、次世代のロボットであるda Vinci Xiシステムの導入が決まり新機種での治療が開始になります。今後のロボット手術がどのような展開を見せるのかはまだ不明ですが、泌尿器科におけるロボット支援手術は、他の領域におけるロボット支援手術に比べ一日の長があることは事実であり、また、現時点で最新の機器を用いて治療を行える環境は恵ま



れているといえます。北海道と腹腔鏡手術、ロボット支援手術に興味を持たれた研修医の先生、医学生の方々にぜひ一度見学に来ていただきたいです。北海道の大地と同様おらかな教授と

教室員が温かくお迎えいたします。

福島県立医科大学医学部 泌尿器科学教室

～私の感じる泌尿器科の魅力～



福島県で働く、泌尿器科医に密着します。今回は、福島県立医科大学附属病院に勤務する医師です。私は埼玉県出身で、福島県立医科大学医学部を卒業しました。腹部の外科に興味があり、外科、産婦人科等も考えていましたが、なぜか尿路の魅力にはまってしまう(笑)、泌尿器科を選びました。医師となつて10年目ですが、今もなお泌尿器科の面白さ、難しさを実感しています。

魅力① 腎、尿路、男性生殖器のスペシャリスト
泌尿器科のアピールポイントとしてよく挙げられることですが、泌尿器科は、腎、尿路、男性生殖器の診断から治療までを一貫して担当します。他の外科系と大きく違う点です。

魅力② マスターしなければならぬ処置が意外に多い
外来診療レベルでも、



ロボット支援手術の光景

経尿道的手術を執刀する、泌尿器科1年目の医師

魅力③ いろいろな種類の手術がある
マスターしておかなければならない処置が多数あります。代表例が尿管ステントの挿入です。尿路結石症でも必要ですが、消化器癌や婦人科癌など、他科の疾患が原因となつて必要になることが非常に多いです。腎臓造設も同様です。次に多いのは、尿道カテーテルを挿入できないので何とかしてほしい、という依頼でしょう。あの手この手を尽くしてカテーテルを入れたり、膀胱瘻造設を行ったり・・・患者さんからも他科の医師からも感謝されます。若いながらも、泌尿器科医としての喜びを感じることもできる一時です。

マスターしておかなければならない処置が多数あります。代表例が尿管ステントの挿入です。尿路結石症でも必要ですが、消化器癌や婦人科癌など、他科の疾患が原因となつて必要になることが非常に多いです。腎臓造設も同様です。次に多いのは、尿道カテーテルを挿入できないので何とかしてほしい、という依頼でしょう。あの手この手を尽くしてカテーテルを入れたり、膀胱瘻造設を行ったり・・・患者さんからも他科の医師からも感謝されます。若いながらも、泌尿器科医としての喜びを感じることもできる一時です。



開放手術に挑む医師

小手術は、卒後1年目から執刀していきます。小手術とは言え、今後の泌尿器科手術のエッセンスが詰まっていますから、非常に重要です。これと並行するように修練するのが、経尿道的手術です。経尿道的膀胱腫瘍切除術はその代表例です。簡単そうに見えて実は奥が深い手術です。

学年を経るにつれ、開放手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術へと移っていきます。解剖の理解系結びの練習、ドライボックスを用いた腹腔鏡での縫合トレーニング、夜遅くにロボットを使って練習したりなど、マスターするには日々の努力が必要です。楽なことではありませんが、泌尿器科医を目指した初心を思い出し、精一杯頑張っています。

魅力④ さまざまな働き方がある
二十年后、三十年後の働き方を考えたことがあるでしょうか。たとえば、泌尿器科の〇〇に興味がある、大きい手術はちょっと・・・、透視診療に携わりたい、クリニックで患者者の生活指導にあたりたい、癌患者の緩和医療に情熱を注ぎたい、サブスペシヤリティに特化してやっていきたい、透



大型動物を使った腹腔鏡体験セミナーにて

析診療を行いたい、など、泌尿器科の専門性を維持しながら、色々な働き方をすることが可能です。泌尿器科には、他科にない魅力がたくさん詰まっています。共に学びましょう。

福島県立医科大学医学部
泌尿器科学講座
小川総一郎



泌尿器科では泌尿器癌、(神経因性) 排尿障害、尿路結石、尿路性器感染症、骨盤臓器脱などの女性泌尿器科、腎不全診療(透析療法、腎移植)、男性不妊、小児泌尿器科など幅広い領域をカバーしている診療科です。また外科系でありながら診断から治療、フォローアップまで行っており、内科的側面も持ち合わせている診療科であるといえます。泌尿器癌の多くは増加傾向にあり、中

も前立腺癌は厚生労働省の統計調査で二〇二〇年には罹患率が全癌腫のうち第三位になるといふ試算があり、また透析療法を必要とする腎不全患者も増加の一途を辿っております。団塊世代の高齢化という社会背景の中で泌尿器科のニーズが著しく高まることが容易に予想され、泌尿器科医の増員は急務といえます。また、その果たすべき役割も多様化すると考えられ、女性泌尿器科医師の増員も望ましい状況です。

秋田大学腎泌尿器科では羽瀧友則教授を中心に、診療、研究、教育、全的にバランスよく、且つ高いレベルを維持できるように常に意識して取り組んでいます。診療においては癌診療、ロボット支援下や腹腔鏡等の低侵襲手術、腎移植の三本柱を中心とし、六〇〇床規模の大病院における病床稼働率、手術件数で全国トップクラスを誇っており、また泌尿器腹腔鏡技術認定医も二〇人以上輩出しております。更なる臨床修練のための国内留学先や県内外に多くの関連病院を有しています。研究においては、その名の通り、H.M.A.M.Aの指標となり得る**科学研究費獲得額、米国内泌尿器科学会演題採択数**など、常に国内トップ十にランクインしております。留学先も米国、カナダ、オランダ、オーストラリア、など多岐に渡っており、選択肢も豊富です。学生に対する指導では、臨床実習後の本学学生のアンケート調査で、「廻った診療科のうち、最も良い指導であった診療科」ランキングで**連続一位二年**を獲得致しました。学生からの高い支持を得ていることもあり、地方大学でありながら新臨床研修制度が施行されて以降も平均以上の人の新入医局員を迎えることが出来ております。

泌尿器科はともやりのある、バラエティーにとんだ一生飽きない診療科です。ぜひ我々と共に、泌尿器科医の道を歩みましょう!!!



医局集合写真



旭川医科大学は北海道のほぼ中心に位置し札幌に続く第二の都市である旭川の地に一九七三年に開校しました。同時に設置された泌尿器科学講座(後に腎泌尿器科学講座(後名称変更)は初代黒田一秀教授から第二代八竹直教授に引き継がれ、二〇〇五年六月第三代柿崎秀宏教授が就任しました。北海道特有の地政学的理由から旭川を中心とした約一八〇km圏内の道央、道東、道北の医療圏

において中核的役割を担っています。現在年間約六百件前後の手術を行い標準治療としての開腹、腹腔鏡、ロボット支援手術はもろろのこと、小児泌尿器科における重度の尿路性器先天奇形に対する根治術や難治性の尿路狭窄症の対する根治術、腸管利用尿路再建、人工括約筋埋め込み術、他院での治療が困難な尿路結石治療、不妊治療等々、**大学病院でありながらCommon diseaseから先端医療までほぼ全ての泌尿器科疾患の治療に取り組んでいます。**また学術的素養を高めるための国内、国外留学も積極的に勧めています。一方先に述べた道東道北医療圏では泌尿器科医師不足は深刻で、現在申請中の後期研修プログラムでは大病院での研修とそのような地域医療の最前線である地方中核病院を交互に研修することで泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療における



医局夏の大会

他施設との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができます。写真は毎年開催されているスタッフを招いてのバーベキュー大会の様子です。教授を中心とした和やかな雰囲気のもと日々の業務に邁進しています。ここ数年入局希望者が増加しておりますが、絶対的な医局員の数はまだまだ足りません。新しい仲間が増えることを期待していますので興味のある方は是非一度見学に来て下さい。



教室の紹介

二〇一六年には講座開講五十周年を迎える歴史の古い教室です。二〇一四年七月に就任した小原航教授のもと、教室員は全員40歳代以下という若さを象徴する柔軟な教室運営が始まりました。「岩手から世界に発信する医療」を目標に、診療、研究、教育に努めています。英語論文の抄読会、画像カンファレンス、病理カンファレンス、研究ミーティング、外国人講師を招いた医学英会話など若手の指導に力を注ぐとともに、教室員が自己研鑽を積むことで探求心を培うよう指導されています。

診療

泌尿器癌、排尿障害、小児、女性泌尿器疾患、腎不全医療などを中心に、最新かつ最善の診療に努めています。診療内容は外来診療、病棟業務、手術など専門医取得に必要な症例を多く経験できます。経年数やスキルに応じ

て、経尿道的手術、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術などを経験していきます。二〇一五年は前立腺癌に対して年間に100件超のロボット支援下前立腺全摘除術を行い、術者は医師十五年目前後の若手医師が主体です。また、岩手県では泌尿器科が保存期腎疾患から腹膜透析、血液透析、血液浄化、腎移植まで全てを担っています。そのため腎不全管理など内科的論理思考も養うことが



医局川下り&BBQ大会

多様性を
持った泌尿器科医を育成するため「腫瘍・内視鏡、画像・移植・透析」の3つの研究班を立ち上げ、研究、国内外発表、論文作成等

できます。また、関連病院と協力し、地域ネットワークを構築し腎移植を積極的に増やして行っています。

研究

次世代医療を見据えてゲノム医学研究を中心に臨床ならびに基礎研究を行っています。これまでに、網羅的遺伝子発現情報解析を用いた膀胱癌化学療法感受性予測システムの構築、癌ペプチドワクチン療法の臨床応用、前立腺癌発症に関連する

教育

専門医・認定医取得に向けて教室全体でバックアップしています。大学のみならず出張関連病院においても上級医の手厚い指導により、医師として着実な成長を実感できると思っています。また、泌尿器科を詳しく理解していただくため初期研修医や医学生を対象としたセミナーを定期開催しています。セミナー後は懇親会を開催し、将来の夢や希望を語り合います。夏には県内の小学生を対象とした手術場見学会を開き、次世代の医療人の育成にも力を入れています。

メッセージ

岩手県には広大な自然と四季折々の食材が豊富に揃っており、仕事の合間には川下りやバーベキューなどを教室員皆で楽しんでいます。泌尿器科は内科的かつ外科的要素を兼ね備えたやりのある診療科です。これを読んでいただいた皆様に、泌尿器科の魅力が伝わり、生涯働く場として泌尿器科を選んでいただければ幸いです。

岩手医科大学 泌尿器科学講座 小野田 充敬

